



京丹波町
KYOTAMBA TOWN

皆既月食のそら



京丹波町農業委員会だより
第25号

令和5年3月発行

京たんば

目次:

委員がGo! ⑫ 京都祇園八坂神社本殿大しめ縄づくり(下山)	2
委員がGo! ⑬ 京都府農林水産業功労者表彰受賞	3
委員がGo! ⑭ 熊と人の境界のむずかしさ(京丹波町)	
委員がGo! ⑮ 女性グループ「そねっと」の挑戦(曾根)	4
委員活動 令和5年度総会開催予定と主要事業計画	
委員活動 農地等利用最適化推進施策意見書提出	5
シリーズ 町内ぶらり取材日記3～女性就農者訪問(大倉)	
シャッターチャンス 「昔ながらの黒大豆収穫風景」(小畑)	6
お知らせ 将来、加入して良かったと思える農業者年金のハナシ	
農業機械好きの委員がお届けする「農業機械のハナシ2」	7
京丹波名所撮影 廣昌寺(大朴)	8
全国農業新聞を読もう～役立つ情報満載! 編集後記	

表紙の説明

令和4年11月8日の皆既月食の写真です。皆既月食自体は、令和3年5月にも起こっており特別珍しいものではありませんが、今回は併せて月に天王星が隠れる「天王星食」も見ることができるといって実に四十二年ぶりの天体ショーとして紹介されていました。次回は、三二二年後...子や孫の代でもかなわないようです。

広報部会委員として、カメラにおさめたく望遠カメラを手にチャンスを狙いましたがいかげでしょうか? 皆さんもご覧になられましたか?
(撮影者 S委員)

発行/京丹波町農業委員会 編集/京丹波町農業委員会広報部会

〒622-0292 京都府船井郡京丹波町蒲生蒲生野487番地1

電話 0771(82)3822

FAX 0771(82)2700

委員がGO! ⑫ 京都祇園八坂神社本殿大しめ縄づくり

京丹波町下山尾長野には、素戔鳴尊（スサノオノミコト）を祭神とする京都祇園八坂神社の御分社にあたる尾長野八坂神社が所在します。創建の時期は不明ですが、現在の社殿は火災に遭った後、江戸中期（天和3年）に再建されたものと伝えられています。

昭和45年に五穀豊穡を願い京都祇園八坂神社と尾長野八坂神社との間で、神撰田（しんせんでん）の話がまとまりました。同年5月に初めて区民の手により「御田祭」（おんださい）が実施されて以来、次の行催事が執り行われているそうです。



5月の第3日曜日、「御田祭」。白と赤の着物に菅笠をかぶる8人の早乙女が神前に供えられた苗を手植えします。

7月、京都祇園祭の神幸祭（17日）と還幸祭（24日）の前日、「お稲さん」として、神撰田から稲株を抜き取り奉納。祇園祭の神輿3基の鳳凰の足元に取つけられます。

地域に根付いた伝統文化（下山）

9月上旬「抜穂祭」（神撰田の稲刈り）。京都祇園八坂神社へ新米が奉納されます。

12月、「大しめ縄づくり」。京都祇園八坂神社本殿正面に取り付けられる大しめ縄は、長さ3.5メートル一本、3メートル2本をはじめとする計11本が奉納されるそうです。

取材に伺ったのは、12月11日（日）。午前8時から丸一日かけての作業に集められた地域の方は、20代から80代までの男性約25人。若手の参加者もベテランからの指導を受け一緒に作業を担います。藁を束ね、左巻きに緋い、大撚り合わせでやっと完成という大作業ですが、本当に手際よく分担され、わずか一掴みの藁から大きな素晴らしいしめ縄が完成していく姿に感動しました。まさに半世紀余りの長きにわたり、ここ尾長野地域で引き継がれ、愛し守り育てられ根付いた貴重な伝統文化です。

この一連の行催事は、農業の伝統文化であり、先代から受け継ぎ、後世へと伝え残していく守るべき大切な文化です。御田祭、祇園祭で打ち鳴らされる「丹波八坂太鼓」発祥の地としても知られる尾長野地域。京都と京丹波町を結ぶ大切な文化伝承の地です。

（広報部会委員 山内 建夫）



写真：よいしょ！！立派な大縄

委員がGo!⑬

京都府農林水産業功労者表彰受賞

軽尾 孝さん（東又）

令和4年11月26日、京都府農林水産フェスティバルにおいて農業委員の軽尾孝さんが農林水産業功労者表彰を受賞されました。

軽尾さんは、瑞穂農業公社（現在、「一財」京丹波農業公社）の立ち上げ時にソバの特産化に貢献されるとともに昭和62年ごろ（農協職員時代）に農家有志にホウレン草栽培を働きかけ、部会の設立や産地の基礎を造るなど地域農業の振興と発展に貢献されました。

全ては、農協職員時代に農業事情や経営の実態を視察するため渡米したことが契機と語る軽尾さん。

現在は、農業委員活動を精力的にこなす一方で、自身の農産物生産だけでなく、農作業受託を行う株式会社鎌谷の取締役としても活動。更には、地域の小学生にソバや米づくりの指導を行い、将来の担い手育成にも尽力いただいています。



写真：軽尾農業委員

委員がGo!⑭ 熊と人の境界のむずかしさ

それぞれが生きるための事情（京丹波町）



写真：熊になぎ倒されたフェンス

反面、里山にはふんだんに柿や栗が実っています。冬を乗り越えるために里山に降りてきた熊は、金網フェンスをなぎ倒して侵入、樹の上に棚を作り、そこで食します。

今回（10月8日）、シカの害を防ぐために設置したワナに熊が誤ってかかってしまいました（誤捕獲）。

民家から200m以内だったため捕殺となりました。49kgのオスでしたが冬眠するころには倍



写真：捕殺後の個体別の計測作業中

くらいになります。今回熊にすれば生きるため、子孫を残すために必死になって食べ物を探しているのです。言い換えれば、本当に山にはエサとなる木の実がないために、死というリスクを背負いながら、人間が住むエリアまで入り込まねば生きていけないのだと思うのです。

もちろん、人を守ることが最優先ですが、何とかそれぞれが生きられる方策ができないかと思う今日この頃です。

（広報部会委員 谷 義春）



委員がGO!⑮ 「そねっと」の挑戦

「6次産業化への道と『味夢の里』(曾根)

平成27年開設の道の駅『味夢の里』に何か作って売れたらいいねと集った6人のメンバーで加工グループ「そねっと」が結成されました。(平成25年4月)名前の由来は、曾根地域の「曾根の人」という意味だそうです。令和2年9月法人化に移行。「そねっと合同会社」として活躍中の皆さんにお話を聞きました。



写真 「味夢の里」そねっと厨房前でメンバーの皆さん

結成当初は、加工施設探しに奔走されたそうですが、「味夢の里」の中の厨房が借りられるということで落ち着き、道の駅開所までの2年間は、食材が豊富にある京丹波町で、丹波栗や黒豆、丹波大納言など地産の商品開発に挑戦されたそうです。メインに販売する商品としては、今も変わらない人気の「黒豆ちらし寿司」で販売当初は確保が難しかった黒豆も現在では百キロを超えて契約栽培をお願いしていると伺いました。このほか、「黒豆いなり」、「おにぎり」などのご飯類の他にも「コッポリン」や「栗餅」、「アップルパイ」など一年を通して季節の食材をお届けいただいています。

また、以前から各家庭で栽培してきたラベンダーを「味夢の里」でも活かし、「そねっとラベンダーガーデン」としてたくさんのお客様に爽やかな香りと摘み取り体験などを提供するなど美化景観作業にも貢献されています。

京丹波から「おいしい」を広く発信することを目的に新商品開発を行っているという「そねっと」の皆さん。私もファンの一人で「コッポリン」は大好きです。今後の新商品に注目しています。

(広報部会委員 清水 淳之助)



令和5年度主要事業計画

- 7月 農地利用状況調査
- 8月 農地利用意向調査
意見交換会
- 9月 農地パトロール
- 11月 現地調査・視察
- 12月 意見書提出
- 年2回 広報誌発行
- 随時 地域計画調査・相談

令和5年度総会開催予定日

4月6日	第27回	11月7日	第34回
5月8日	第28回	12月6日	第35回
6月6日	第29回	1月9日	第36回
7月6日	第30回	2月6日	第37回
8月7日	第31回	2月13日	任命式
9月6日	第32回	3月6日	第2回
10月6日	第33回		

第6期農業委員並びに農地利用最適化推進委員は、令和6年2月10日に任期満了を迎えます。委員募集につきましては、再度ご案内いたします。それぞれの地域で適任者の推薦等について、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

町に意見書提出！

「農業者の思いを届けよう（農政部会）」

農業委員会では、農業委員会等に関する法律第38条に基づき、町行政に対し、毎年、意見書を提出しています。

令和4年12月20日、アンケート実施や意見交換会で意見が多かった9つの課題解決に向け、農地等利用最適化推進施策に関する意見書と



写真：松野委員 川邊職務代理者 畠中町長 下村委員 野口委員

してまとめ、畠中町長に手渡し意見交換を行いました。主な内容は次のとおりです。

- 一、担い手への農地利用の集積・集約化：地域計画「策定に向けた関係機関との連携と素案づくりへの支援。制度の周知徹底と説明会の開催。
- 二、農業経営安定化への対策：米を中心とした農産物価格安定対策と支援。
- 三、小規模農家への支援
- 四、遊休農地対策
- 五、新規参入の促進：参入者の営農定着に向けた支援・体制整備。
- 六、有害鳥獣対策：個体数の抜本的な削減策と被害防止対策の強化、補助金制度の周知徹底。
- 七、スマート農業の推進：更なる支援拡充と積極的な活用。
- 八、水田活用直接支払交付金の見直しへの働きかけ
- 九、肥料・燃料費の高騰支援

（広報部会委員 北村 辰浩）



シリーズ 町内ぶらり取材日記3

「チャレンジ大好き、元気な女性就農者を訪問しました（大倉）」

千住麻努可（せんじゅう まどか）さんは、大阪府門真市で建設関係の会社を経営されています。農業をやりたいという強い思いから、4年前に大倉区（和知地域）の古民家と農地を取得し、新規就農者として京丹波町に來られました。

農業の経験が多少あったものの、当初は気候の違いや、中山間地での草刈りなど、農業をするための環境作りに手いっぱい状況で、とても栽培まで手をつけることが出来ない状態だったとか…。

現在では週に2日程度、休耕田も利用しながら黒枝豆、万願寺唐辛子、ジャガイモを主に四季折々の野菜を協力者とともに栽培。収穫した作物は道の駅などで販売したり、地元の野菜部会をとおしてスーパーに卸しているとのこと。

また、野菜だけでなく、キノコ栽培も始め収穫が楽しめそうです。

今後は、町内外から集客をはかり農業や収穫体験を計画するなど、収益を拡大するための環境整備も考えていると伺いました。



写真：トラクターを操作する千住さん

お話を聞くと、農業の事はかなり近く地域住民のつながりや活性化、農業政策など、多方面にわたり考えておられ、一層の活躍が楽しみです。趣味をおたずねすると、「私にもガソリンが必要なので飲むことです」と豪快に笑っておられたチャレンジ精神旺盛な千住麻努可さんでした。

（広報部会委員 山内 康彦）





京丹波町特産『黒大豆』脱粒の作業風景です。(和知地域・小畑)

和知地域で栽培され、白い粉をふいたように仕上がる黒大豆は、大粒でコクがあると評判で『和知黒』のブランド名で呼ばれてきました。

天日で乾燥した黒大豆を昔ながらの脱粒機を使い、一粒ひとつぶ割れないように豆殻を取り除いていきます。

店頭に並ぶまでには、まだまだいくつもの工程を踏む必要があり『苦労豆』と呼ばれているのもうなずけますが、お正月には欠かせない伝統の一品です。

天候に左右されがちで最近では枝豆としての需要も高い『黒大豆』ですが、特産品としての技術が後世に引き継がれていくことを願っています。

(令和4年12月4日)

(広報部会委員 山内 康彦)



事務局へGo！

基礎年金番号だけで簡単書類作成！

老後の不安解消へ！！

農業者年金

加入資格は3つだけ！！ (QRコードでメリット確認)

- ①20歳以上65歳未満の方
- ②国民年金の第1号保険者(自営業の方など)
- ③年間60日以上農業に従事する方(お手伝いOK)

少子高齢化に左右されない終身年金！

保険料は、月額1万円(35歳未満対象)から6万7千円まで自由に選択！

・途中脱退や再加入も可能。将来、加入して良かったと思える年金。

税制面の大きな優遇！

・保険料の全額が社会保険料控除！受取るときも公的年金控除の対象！



今回のネタは…コレ!!

第2回

農業機械好きの農業委員がお届けする 農業機械のハナシ

農業機械好きの農業委員がお届けする

みなさんこんにちは。
農業委員の宇野栄晃です。
今回はこの懐かしい農業
機械を紹介しちゃうよ。



↑ この機械 70 才

不思議ポイント

燃料はなんと……

灯油です。

そう、ストーブと一緒に。でも
最初エンジンをかける時だ
けガソリンを使って、途中
で灯油に切り替えます。当
時ガソリンは貴重品で手
に入りにくかったようです。

とーや!?
えっ、やろ
うソヤ



この機械は何ですか？

昭和 27 年製造のクボタ製発動機（4 サ
イクル灯油エンジン）です。人力や畜力
に代わる農作業の動力源として開発さ
れ、あらゆる用途に使用されました。当
時はこのような発動機を製造するメーカ
ーは国内・国外併せて数百社あり、農村
の救世主として大活躍しました。



銅板に全ての文字が打ち出しで書いてある
凝りに凝った銘板。歴史を感じるわあ。

エンジンかけてみた



まず水入れる。

灯油を入れて
ちょっとだけ
ガソリンも入れる。



オイルを差す。
全て手作業で準備
していきます。

はずみ車を
手回ぐるぐるまわす
エッサ、エッサ。



おお、かかった～
排気ガスの色や音を
聞きながら、徐々に
ガソリンから灯油に
切り替える。

温まったらモク
モクと蒸気が出
る。水の気化熱で
熱を逃がすよ。



不思議ポイント



おっ、何かこんなところに見
慣れん変なもん付いてる
で。何やこれ!!

これはエンジン内部にオイル
を点滴で落とすガラス製の
点滴装置やで。



あらかじめオイルを入れと
いて、1 分間に 10 滴前後
落ちるように調整するで。

「後生大事」

この機械は、倉庫の片隅に 50
年近く眠っていたものを私が引
き取ってきました。戦後の日本
復興に貢献した小さな立役者
に感謝の意を込めて、撮影後は
いつもより多目にオイルを差し
て、丁寧に磨いてやりました…。



京丹波名所撮影 廣昌寺のライトアップ（瑞穂地区・大朴）

全国農業新聞を読もう！

全国農業新聞

農業委員・推進委員の活動事例も載っています。農業の最新情報や地域の明るい話題などを紹介！あなたの知りたい情報をキャッチしよう！

京丹波町の話題もたくさん掲載！

発行 毎週金曜日

購読料 月額 700円

★購読申込は、お近くの農業委員・推進委員又は事務局まで



編集後記

廣昌寺（瑞穂地区・大朴）のライトアップの夜景です。地域の方からのお勧めで現地に行きました。

紅葉の季節には、全国各地で絶景が紹介され、訪れてみたいと思うこともしばしばですが、大自然を誇る町内には、地域住民しか知らない隠れ名所がたくさんあります。

地元自慢の名所を事務局までお寄せください。（撮影者・委員）

昨年末に開催された令和4年度京都府農業委員会広報誌「コンクール」において、当委員会発行の広報誌「農業委員」が、京都府農業委員会特別賞に輝きました。

紙面作成にご協力いただき、ありがとうございました。

今後ともより良い紙面作りの為、編集委員6名が東西走りますので、ご協力をお願いします。

（編集長 宇野栄晃）